

仙台バッハゼミナール 主催



宮崎 晴代 先生

(中世・ルネサンス音楽研究者)

## 特別講座Ⅱ

2022年7月29日(金)

第1部 13:30～15:30

「鍵盤音楽のための楽譜の歴史

ー バッハも使っていた“タブ譜”とは？」

第2部 18:00～20:00

「ソルフェージュ(ソルミゼーション)の歴史

ー “音取り”に悩むのは今も昔も変わらない!？」

会場 : N-oval音楽サロン

参加費 : 各部 : 一般 3,000円 大学生以下 2,500円

通し : 一般 5,000円 大学生以下 4,000円

(別途 : 資料コピー代実費)

要申込み

《お申込み・お問い合わせ》

仙台バッハゼミナール

022-794-9244

sendai\_bachseminar@yahoo.co.jp

お申し込み用フォーム



協力 : (一社)

ミュージックプロデューサー M H K S



## 《第1部》

### 鍵盤音楽のための楽譜の歴史 ーバッハも使っていた"タブ譜"とは？

ピアノの楽譜といえば「大譜表」が一般的です。でも、鍵盤楽器のための楽譜が誕生した500年以上前には、全く違う楽譜が使われていました。それは、一見すると楽譜には見えないようなものですが、そのタイプの楽譜を、人々は実に300年間も続けて使っていました。バッハもそのタイプの楽譜を使っていた一人です。そういった様々な鍵盤楽譜の変遷を、オリジナル譜や音源とともにたどりながら、当時の音楽家たちに思いをはせてみたいと思います。

## 《第2部》

### ソルフェージュ(ソルミゼーション)の歴史 ー音取りに悩むのは、今も昔も変わらない!?

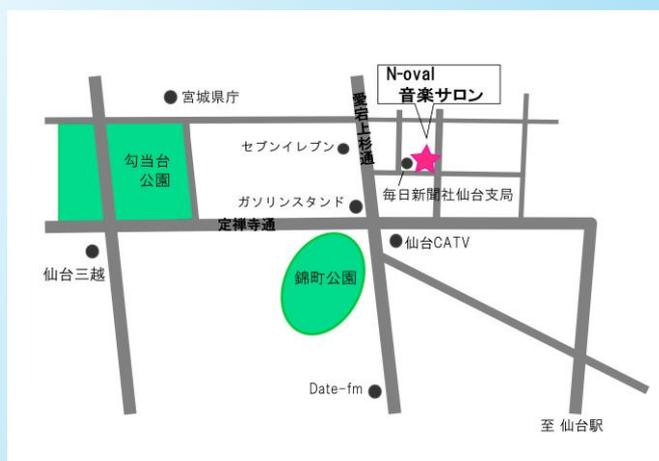
新しい楽譜を前にして、そこに書かれた音楽が頭に思い浮かぶ人はどのくらいいるでしょうか。西洋音楽の歴史が始まって以来、聖歌隊員たちは音取りに苦労していました。彼らは様々な工夫を重ね、なんとか正確に音を取れるようにと、涙ぐましい努力を重ねてきたのです。本講座では、取り上げられることの少ない「ソルフェージュ(ソルミゼーション)」の歴史を取り上げ、人々がどのように音を頭に思い描いていたのか、一緒に考えてみましょう。

## 宮崎 晴代 先生 プロフィール

武蔵野音楽大学大学院修士課程音楽学専攻修了。米国フロリダ州立大学大学院博士課程で Certificate in Early Music を取得後、東京大学先端科学技術研究センター協力研究員として、音楽における時間論と記譜法を研究する。大学で後進の指導に当たりながら、中世・ルネサンス時代の音楽理論研究を行う。また中世音楽合唱団に所属し、演奏活動も行っている。日本音楽学会、アメリカ音楽学会、西洋中世学会各会員。国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部事務局長。著書『バロック音楽の名曲』(2008)、共訳書『グロケイオ「音楽論」全訳と手引き』、『ミクロログス(音楽小論):全訳と解説』など。東京藝術大学、武蔵野音楽大学、昭和音楽大学、フォンス・フローリス古楽院、各講師。

## 《会場案内》

仙台市青葉区錦町1-5-1 N-ovalビル1階



J R 仙台駅より

徒歩約15分 / タクシー約6分

地下鉄 勾当台公園駅より

徒歩約10分

※駐車場はありませんので

周辺のコインパーキングをご利用ください